

# (仮称)北彩都ガーデン整備基本方針

～ ガーデン整備の目的と基本方針の作成 ～

< ガーデン整備の目的 >

現在旭川市では、旭川都心部の活性化の為に様々な施策を展開しております。旭川駅を中心とする(仮称)北彩都ガーデンについても、市民をはじめ旭川の玄関口として外から来た人も楽しむことが出来る憩いの場となり、都心部の魅力を高め賑わいづくりに繋がるよう整備します。

< 整備スケジュール >

H22年7月 12月 H23年1～2月 H23年3月 H23年度 H24～25年度

(仮称)北彩都ガーデン検討懇談会

方針  
作成

方針  
作成

整備  
基本  
方針  
の  
決定

実施  
設計

工事  
一部  
着手

工  
事

< 北彩都のまちづくりとの整合 >

宮前公園や新しい旭川駅舎など整備が進む「北彩都あさひかわ整備事業」では、河川等の自然環境空間と市街地との一体化を目指したまちづくりが進められております。

【北彩都あさひかわのまちづくり】

- ・川からのまちづくり
- ・都心部に豊かな自然を取り込むまちづくり
- ・忠別川の本来の自然環境を大切にすまちづくり

< 現地の状況 >

北彩都地区では、忠別川から神楽岡公園まで繋がる豊かな自然が溢れ、また遠くに大雪山系の山並みを望むことが出来る素晴らしい景色が広がります。



北彩都のまちづくり、現地の状況、そして懇談会での意見などを踏まえ、以下の整備方針素案を作成しました。

< 「(仮称)北彩都ガーデン検討懇談会」からの意見 >

【主な意見】

ガーデンのコンセプト、整備方針について

- ・北海道の風土を感じるガーデン
- ・大雪山系の遠景や川などの周辺の自然環境を活かしたガーデン
- ・旭川の素顔(四季折々の姿など)を見せるガーデン
- ・中心市街地活力再生の切っ掛けとなるガーデン
- ・都心のオアシスとなるガーデン
- ・市民の憩いや癒しの場所となるガーデン
- ・市民をはじめ観光客も楽しめるガーデン
- ・バリアフリー化し、車いす利用者も楽しめるガーデン
- ・小さな子供など、親子で楽しめるガーデン
- ・誰もが魅力を感じるガーデン
- ・河川敷全体に花が広がるガーデン
- ・イングリッシュガーデンの整備
- ・旭川に貴重な在来種などを保存するガーデン
- ・花だけでなく樹木を活かしたガーデン
- ・ガーデナー、プロデューサーの招聘によるデザイン
- ・教育、学習の場としてのガーデン



ガーデンのアクセスについて

- ・無料駐車場の設置
- ・一般人は中心部の駐車場へ誘導し、お年寄りや体の不自由な人は近くの優先駐車場を活用する工夫
- ・案内板、誘導板を設置(統一された分かりやすいデザイン)

ガーデンの維持管理について

- ・コミュニティガーデンとして市民が管理運営
- ・市民ボランティア、ガーデンサポーターを組織(市民協働)
- ・市民ボランティア活動を広報することによる継続性の担保
- ・無償ボランティアのみでは、継続しない
- ・ボランティアにある程度の報酬(交通費等)を支払う
- ・維持管理の他に現地での案内も任せる
- ・10年後もクオリティを維持する工夫
- ・専属スタッフ(チーム)による維持管理
- ・ハイメンテナンスゾーンとローメンテナンスゾーンを設定
- ・ハイメンテナンスのイングリッシュガーデンは広くしない
- ・市、団体、個人それぞれが管理するエリアを設定し分担
- ・市民の募金によるサポート



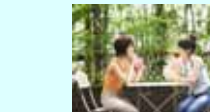
冬期間の利用について

- ・歩くスキーが出来る
- ・冬のイベントの開催(イルミネーションなど)
- ・雪原、樹氷、ダイヤモンドダスト、けあらしなどを見る(ウィンターガーデン)
- ・周年鑑賞出来る温室、サンルームの設置



その他

- ・賑わいが生まれる工夫を施す
- ・花に関するイベントを開催
- ・夜の演出を施す
- ・花の街動物園として市民参加でトビアリーを製作
- ・神楽岡公園の歴史や風土を活かしたガーデン
- ・大池前の民間売却地を活用
- ・自然が溢れ虫採りも出来る
- ・河畔林の復元、木陰を作る



【全体整備方針】

大雪山系の山々から繋がる忠別川の豊かな自然環境を活かし、旭川都心部に相応しい川のガーデンを整備する。

- ・忠別川周辺の風景や環境を活かし、メリハリある整備や管理を行う。
- ・エリア毎の特徴を活かした整備を行いながら、全体を連携する。
- ・誰もが魅力を感じ、楽しめるガーデンを目指す。
- ・市民が守り育てるガーデンを目指す。



【各エリア別整備方針と整備イメージ】

【大池】エリア

プロムナードには沿道に樹木を列植する。また、階段護岸を整備し、駅からの回遊性や親水性を確保する。南側(河川側)は河畔林を形成し、水際には湿性植物の生育空間を確保する。水面は野鳥の休息空間となり、(北側の)都心部の貴重な憩い空間と、(南側の)自然環境の豊かさを実感出来る場所とする。



【リバーフロント】エリア

民間などへの売却地であるが、大池を望む場所であり、便益施設(飲食施設等)の設置、建物意匠、外構整備等について、ガーデンの一部として地権者へ理解と協力を求める。



【南6条通沿】エリア

北国らしい樹木を主体とした、歩いて楽しめるガーデンを整備する。



【宮前公園西】エリア

演出性の高い華やかなガーデンと、大池やガーデンを眺めながら休憩出来る芝生広場を整備する。また、便益(飲食)施設設置を検討する。



【旭川駅南】エリア

メインエリアの1つとして、ガーデンの素晴らしい景色、また川のガーデンの魅力伝えるよう、新しい駅舎や対岸である左岸、そしてガーデン全体の風景を意識した整備をする。



【北彩都地区整備イメージとガーデンエリア割図】



ガーデン連携エリア: ガーデンエリア周辺地域として連続性ある風景を作り出すエリア

【シビックコア】連携エリア

大きな円形芝生広場や、各施設周辺に設置されている緑に囲まれた休憩施設を利用することができるシビックコア地区と連携する。



【宮前公園東】連携エリア

南6条通側に樹林地を、河川側には芝生広場を設け、河川緑地と一体化した緑の空間を形成する。また、大型遊具を設置し子供が遊べる空間を配置する。



【忠別橋上流右岸】連携エリア

市街地からのアクセスを容易にするため、堤防を緩傾斜化し、また、ガーデン西側のエントランスとしてガーデンエリアと調和した整備をする。

【左岸広場】エリア

旭川駅など右岸側から見た景色を造り上げるため、草花の刈り込み方などの工夫を施し、川の流れを表現するなど忠別川の自然特性を尊重したエリアとする。



【神楽岡公園】連携エリア

夏のキャンプ、炊事遠足、また冬は歩くスキーコースが設定され、多くの市民に愛されている神楽岡公園と連携する。



【生態階段】連携エリア

階段状に整備した花壇において、河川環境に合わせた在来植物を植栽し、環境学習の場として活用するとともに、市民が関わりながら活用を進める。



【忠別橋上流左岸】連携エリア

旭川駅側から見た景色を造り上げるため、隣接する【左岸広場エリア】と連続性のある風景になるようなエリアとする。

【その他の方針】

【ガーデンの魅力をも高める施設の配置】

ガーデンの魅力を高めるためには、レストランやカフェなどの飲食施設、花の苗や地場産品などを物販する施設、そして無料駐車場の設置など様々な意見を頂いております。今後ガーデン周辺などに設置される施設計画と連携を取ることや、関係する機関と調整を取りながら整備を進めます。

【市民が関わるガーデン】

魅力あるクオリティが高いガーデンを維持するためには、専門的な知識のほか、きめ細やかな管理が必要であり、市民のサポートも不可欠と考えます。デザインや管理手法などについて専門家の指導を受けながら、「市民が守り育てるガーデン」として市民の関わりが継続されるような、仕組みづくりや組織づくりを目指します。

【冬期間や夜も楽しめるガーデン】

雪が降り積もる冬期間においては、例えば歩くスキーをして、雪原、樹氷など冬の自然を楽しみ、夜はイルミネーションや雪あかりなどを実施し、各エリアに相応しい光の演出を楽しめるような、魅力あるガーデンを目指します。

【一体的な管理運営】

各エリアの特徴を活かしながら連携あるガーデンとするため、日常の花や木の維持管理をはじめ飲食施設などの運営について、またガーデンでイベントを開催するなどの活用方法についてなど、例えば専門的な技術者を配置するなど、管理者がそれぞれ異なるエリアの管理運営について総合的にかつ一括してコントロール出来るような体制づくりを目指します。

【整備を段階的に進める】

今年度新しい旭川駅舎が一次開業を迎えるなど、北彩都整備事業は計画的に進められております。このような中、ガーデンも一度に広いエリア全体をつくりあげるのではなく、北彩都事業と調整を図り、財政状況を勘案しつつ、ガーデンの整備状況、また管理手法についても振り返りながら、また有料区域設定も視野に入れ、段階的に整備を進めます。